作庭家・小堀遠州について

小堀遠州（1579～1647 年）は 1600 年代の初め、江戸時代が始まった時期に活躍した著名な芸術家・大名です。小堀は井伊家第 25 代当主井伊直孝（1590～1659 年）から依頼され、龍潭寺庭園を設計したと考えられています。

小堀は現在の滋賀県に当たる近江国の領地を治めていた大名で、茶人として最も知られています。小堀が始めた遠州流の茶道は今も続いています。江戸幕府の第 3 代将軍・徳川家光（1604～1651 年）に茶道を指南する役目も任されました。茶道のほか、建築、華道、陶芸も極めました。

日本中の数多くの庭園、寺院、城は小堀の設計です。京都の二条城や桂離宮の庭園、名古屋城の天守閣はいずれも小堀が設計しました。「きれいさび」という設計様式をつくり出したのも小堀です。「きれいさび」は美しさと素朴さを兼ね備え、日本の平安時代（794～1185 年）の美意識に根ざしています。「きれいさび」より広く知られていて質素な「わびさび」の概念とは対照的です。小堀の庭園は調和と平衡、色鮮やかな花で知られており、いずれも龍潭寺庭園で見ることができます。